

令和7年度 全国・県 学力・学習状況調査結果の概要

西栗倉村教育委員会

① 令和7年度 全国・県 学力・学習状況調査の概要

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査概要

調査実施日	令和7年4月17日（木）、※中学校3年生 理科のみ 令和7年4月14日（月）
調査対象	【全国】児童生徒：小学校6年生、中学校3年生 【県】児童生徒：小学校3年生、4年生、5年生、中学校1年生、2年生
調査事項	【全国】児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、理科〕／質問調査 【県】児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、中学校英語〕／質問調査（小5/中1/中2）
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。
今年度の調査の特徴	・C B T調査の導入中学校3年※ ・多様な生徒の状況把握 ・中学校3年生生徒質問でのランダム方式の試行 ・結果公表の内容、スケジュールの改善

※令和9年度から、全国調査は、小学校・中学校とも全ての学校でCBTになります。（CBT：コンピューターを用いた検査システム）

② 西栗倉村小学校・中学校の調査結果の概要

- 西栗倉村は、全国平均を上回っている学年が多く、基礎的・基本的な知識の定着は概ねできていると考えられます。
- 理由を説明することや自分の考えをまとめて表現すること等は、伸びてきています。
- 学び方では、粘り強く取り組めたり友だちと協力したりすることにも成長を感じています。
- 今後は、ICTを効果的に活用する力を身に付け、様々な学び方を主体的に選択して自己の学びを深めたり、学んだ後の振り返りを生かして次の学びを意識してつなげていったりすることを更に伸ばしていく必要があります。
- 家庭学習時間については、1時間以上学習する児童・生徒の割合が全国や県と比べてかなり低くなっております。
 - ・一概に、長い時間することが良いことであるとは思われませんが、内容や質について、児童生徒が主体的に取り組む力を身に付けることができるよう、家庭と連携して指導支援する必要があります。
 - ・西栗倉村では、家庭学習でも「主体的な学び」や「探究的な学び」を大切にしています。自分の興味のある内容や課題について、計画を立てて取り組み、学習を振り返って改善していく力（自己調整力）が育っていくように引き続き取り組みをすすめていきます。

③ 小学校・中学校・教育委員会の取組の重点

【小学校】

- ・基礎基本を大切にしながら、既習事項を使って説明させ、概念理解ができる授業をする。
- ・自分の考えをもつための時間をしっかり確保する。
- ・日常生活と授業をつなげ、「我がごと」として、主体的に学ぶようにする。
- ・自分の考えをもって交流できるように、引き続き「予習的課題」に取り組む。

【中学校】

- ・自分の考えをもたせ、生徒同士の学びの時間（ペア、グループでの学習）を多くとる。
- ・授業研究を通じて授業力の向上を図る。
- ・自分の課題をもとに自主学習に取り組ませる。事前学習を通じて課題意識をもって授業に臨ませる。
- ・日常生活でも生徒が主体的に活動できるよう支援を行う。

【教育委員会】

- ・村教育ネットワークによる授業研究の開催を行う。
- ・学力担当者会での調査分析と取組交流、進捗確認の場を設定する。
- ・村独自テストの実施をする。
- ・県教委と連携した外部講師の招聘を支援する。

※ 調査結果はあくまで、学力の一部分であり学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

【学力状況調査結果から】「第2次西栗倉村教育振興基本計画（R6年度～R10年度）」の重点指標と関連付けて

1 心豊かな人づくり

「自分には良いところがあると思いますか」

	小6	中3
西栗倉村	83.3	93.8
全国	86.9	86.2

《肯定的回答割合〔単位：％〕》

（小学校・中学校の改善の取組）

- 今後も帰りの会や行事の振り返り等、機を逃がさず児童への賞賛を行うことで自己肯定感を高めていきたい。
- 今後も生徒が主体的、協働的に活動する場の設定を工夫し、計画・実施する。自己評価と互いの頑張りを認め合う場を設定する。

1 心豊かな人づくり

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」

	小6	中3
西栗倉村	100	93.8
全国	93.0	91.6

《肯定的回答割合〔単位：％〕》

（教育振興基本計画から）安心→挑戦

- （小学校）宿題や習い事だけでなく、様々な体験や自分の興味関心のあることにチャレンジできる時間を持つ。
- （中学校）部活や宿題だけでなく、外の世界を知り、関心を持ったことにチャレンジし、協働できる時間を持つ。
- （生涯教育）余暇をゆっくり過ごすことができたり、やりたいことに没頭できたりする時間や場を持つ。

3 西栗倉一貫教育の推進

「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」

	小6	中3
西栗倉村	91.7	62.6
全国	82.5	74.8

《肯定的回答割合〔単位：％〕》

（教育振興基本計画から）信頼→自立

- （小学校）地域の資源を学習し、村をまるごと理解する。特にふるさと元気学習において、学校外・地域に対してアウトプットしていくことで学びを深めていく。
- （中学校）小学校からの学びをいかし、さらに地域について学び、村内外へ西栗倉村の魅力を高める活動を通して、将来のキャリア観を育み、自立を目指す。

4 個別最適な学びと協働的な学びの実現

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」

	小6	中3
学習1時間以上		
西栗倉村	33.3	31.3
全国	54.0	61.6

〔単位：％〕

（小学校・中学校の改善の取組）

- 学年・学級の実態に即した家庭学習を担当が考え、児童に取り組みさせる体制を継続する。
- 授業中でのフォーサイトの記入や帰りの会での記入（学習計画）についての集中取組期間を設けるなど計画的な学習への啓発を行う。

4 個別最適な学びと協働的な学びの実現

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできていますか」

	小6	中3
西栗倉村	100	75.0
全国	84.9	84.7

《肯定的回答割合〔単位：％〕》

（小学校・中学校の改善の取組）

- 総合的な学習の時間はもちろん、各教科でペアやグループなど、話し合う場面を多く取り入れる工夫をする。
- 単元の導入や振り返りを大切にして、協働的・共感的な活動を工夫し充実を図る。

4 個別最適な学びと協働的な学びの実現

「授業でICT機器をほぼ毎日使用しましたか」

	小6	中3
西栗倉村	8.3	81.3
全国	46.7	53.2

〔単位：％〕

（小学校・中学校の改善の取組）

- 活用方法や活用場面などの研修を行う。
- 学習者用デジタル教科書の活用や、即時共有できる機能を効果的に活用して、相互の考えを知る時間を短縮する。
- スライドに自身の考えをまとめたり、レポートを作成したりするなど授業での活用を今後も継続して行う。
- ※身に付けさせたい力を明確にして、2学期以降活用場面を増やして取り組んでいます。